



たにぐち 谷口 たけひこ 武彦 議員

父が逝き
生まれ変わりの
孫育て😊

問

中学校部活動のこれからの考え方は

教育長

さまざまな課題山積だが検討する

部活動の地域移行

問 中学校の部活動地域移行の現状は。

教育長 国から、まずは休日の部活動の指導を令和5年度から3年間で地域や民間団体へ移行する目標が出された。問 地域移行の課題は。教育長 移行する団体組織、指導者の確保や外部委託時の費用負担、移動手段の確保や保護者による送迎の負担などの課題が想定される。

拠点校方式

問 北見市では「拠点校方式」を採用し訓子府町と置戸町の生徒の受け入れが報道されたが、説明がなく生徒などが困惑している。

地域移行と拠点校方式の違いは。教育長 拠点校方式とは在学している学校に自分が望む部活動がない場合、拠点校の部活動に生徒が参加できることだが、北見市から本町へ受け入れの連絡は一切ない。問 保護者への周知は。教育長 北見市は、8年

度からは完全に地域移行になり拠点校もなくなる。課題点が多く、小規模自治体では先に進みにくい状況でありまずは協議したい。



部活動のこれから

問 今後本町が拠点となり近隣の生徒を集めることも必要ではないか。また小中高や事業団との連携した練習などへの支援の考えは。教育長 北見市は平日に大会への参加をせず楽しむ「短時間エンジン型活動」を設置するが、詳細については検討している段階である。

受入団体、指導者、経費など課題が山積みだが本町でも「訓子府スタイル」の部活動を検討していく。

問

情報弱者対策に意見箱の設置は

町長

アナログな部分も必要

町の情報発信

問 公式HPの課題は。町長 知りたいたい情報までたどり着けない、各課からの情報発信の統一感がなくリアルタイムで情報の更新ができていないことなどが課題。

問 SNSの現状は。町長 町の業務、取り組み、イベント情報など他の広報媒体を補完し相乗効果を図っている。

情報弱者への対応

問 緊急な情報、災害、熊の出没情報などSNSを常に見ることができない情報弱者対策は。町長 何かあれば職員が対応するなど情報弱者対策を推進していく。

問 他自治体では、意見箱を設置し住民から意見や要望を行政に直接伝えることができるが、本町での考えは。町長 こういう時代だからこそ、意見箱のようなアナログな部分も必要だと感じている。

また、月1回の発行ではタイムリーな話題に対応できない課題も。

問 広報紙の課題は。町長 「もつと見やすく簡潔に」との声もある。



谷口議員の一般質問を視聴できます